

令和5年度 第2回

長野市社会福祉審議会 老人福祉専門分科会 会議録

日 時	令和5年9月1日（金） 午後2時～午後5時30分
会 場	長野市ふれあい福祉センター 4階会議室2
出席者	委員/<会場> 山岸委員、宮島委員、布目委員、岩下委員、寺田委員、長戸委員、山内委員、小山委員、中村委員、山田委員、青木委員、黒岩委員、戸谷委員、宮本委員 <ズーム> 風間委員 (所属、役職は別紙委員名簿のとおり) 事務局/ 白井保健福祉部長、北原高齢者活躍支援課長、原地域包括ケア推進課長、齋藤介護保険課長、長澤保健所健康課長、富岡国保・高齢者医療課長 ほか 傍聴者5名

(議事録)

	1 開会
	2 あいさつ
	3 新委員紹介 6月24日付 長野市医師会長 釜田 秀明委員委嘱
	4 会議事項 (1) 第十次長野市高齢者福祉計画・第九期長野市介護保険事業計画の策定について ア 現行計画の指標の進捗状況【資料1】 事務局 資料1に基づき、事務局より説明
山岸会長	ただ今の事務局の説明について、委員より質問・意見はあるか。 無いようであれば私から質問するが、説明にあった資料No.1「現行計画の指標の進捗状況」の実績値で「集計中」の表示のものもある。次回計

事務局	<p>画策定の上で、令和5年度の状況を把握しておかないと判断しづらいところがあるがデータが出揃うのはいつ頃になるか</p> <p>資料中の令和4年度の枠に「集計中」と出ている部分については、本日時点では間に合わないが、審議の期間中には提示できる。現計画では、令和2年度の実績値を基準値として使っている。次期計画でも指標を定めていくうえで、この令和5年度を基準値と表し、令和6・7・8年度を実績値、最終的に令和8年度が目標値となる。そのため、今回の計画の基準値とするうえで令和5年度の実績をとりまとめ、委員の皆様を示す必要があるため、できるだけ早く数値を入れ取りまとめたものを示し協議していただきたい。</p> <p>「集計中」のものは、国での集計作業後に公表される。公表値をもってこの数値となるものであり、先ほど申し上げた通り審議期間中には間に合うので少し時間をいただきたい。</p>
山岸会長	<p>承知した。令和4年度の値では、新型コロナウイルス感染症拡大（以下コロナ禍）の影響が大きく、今季のデータから次期計画を立てるには予測が難しい。令和5年度の目標値に対し、令和4年度の数値を見た限りでは実現が難しいと思われる。コロナ禍の影響が徐々に回復してもすぐに戻すのは難しく、達成できないところも多く出てくると思うが、次期計画ではどのように考えていくのか何か事務局として方向性は持っているか。</p>
事務局	<p>こちらの指標では、敢えてわかりやすく見えやすく数値化し進捗管理の目安としている。令和2～4年度は、特にコロナ禍の影響が顕著に出ている。新型コロナウイルス感染症の取り扱いは変わったにしても、無くなったわけではないので、その現状を踏まえたうえで様々な施策を見直しながら指標として設定した目標値を目指して各事業が行われるべきであり、コロナ禍も踏まえたうえでの施策の考え方が、今後必要になってくると考える。</p>
風間委員	<p>資料1-6の「在宅等での看取り率」について伺いたい、「住み慣れた在宅等で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる状況を表す」となっているが、目標値の設定根拠で「老人ホーム死は増加傾向、老人ホームでの看取り対応施設を増やす」とあるが、「在宅などで…」には老人ホームも含むということであるのか伺いたい。「看取りができる老人ホーム」を増やすという意味なのか</p>
事務局	<p>ここでの「在宅」というのは、自宅と老人ホームを併せての表現である。「在宅」の方は、訪問診療などによりすぐに対応していくことは難しいため対応できる施設を増やすという目標設定でやってきている。</p>
風間委員	<p>わかりました。</p>

	<p>イ 長野市第八期介護保険事業計画の進捗状況と介護保険サービスの給付実績 分析について 【資料2】</p> <p>ウ 現行計画の施策別実施状況等について 【資料3】</p> <p>資料に基づき、事務局より説明</p>
<p>山岸会長 長戸委員</p>	<p>ただ今の事務局の説明について、委員より質問・意見はあるか。</p> <p>実際に居宅介護支援事業所でケアマネージャーをしているため、今説明をいただいた介護保険サービスの給付実績が実際に即していることを非常に肌で感じている。2つ質問があるが、表記されている計画値はどのように算出しているのか。先ほど現状値を基に算出しているという話も出ているが、次回計画の計画値をどのように算出するのか聞きたい。二つ目が、サービスのうち通所リハビリと短期入所が非常に減少傾向にあるようであるが、最近介護サービスのうちデイサービスの事業所がいくつか廃業になっていると聞く。デイサービスやショートステイといったサービスが最近廃止されていることで影響が出ていることがないのか確認したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画値の算定についてであるが、国の「見える化システム」というものがあり、全国の各市町村が給付実績を報告している。そのシステムによりこれまでの実績や年度ごとの伸び等を換算し、自然体推計の伸びの中で算定される。そのうえで各市町村の事情により増減すべき対策を取りながら計画値の算定をしていく。</p> <p>通所リハビリと短期入所についてであるが、経緯を比較すると、通所リハビリについては、令和3・4年度を比較すると基本的には同じ事業所数である。令和5年度は、4月1日現在で令和4・5年度を比較すると1事業所が増えている。委員のおっしゃる通り廃業すれば新たに興す方もいるため地域によっては減っている。また短期入所の生活介護施設は令和3・4年を比較すると1事業所が減少、令和5年には3事業所が減っており、委員の言う通り減少傾向である。</p>
<p>長戸委員</p>	<p>私のイメージでは、予防の方はまあまあ元気な方であると思うが、居宅療養管理指導が非常に増えている実態があるのは何故か。</p> <p>居宅療養管理指導は訪問して行うサービスで、予防の人は基本的に家にいてサービスを受けるような身体状況の人は少ないと認識しているので居宅管理指導が多いというのが、実態と比較し少し納得できなかった。実績と合わず計画値よりも実績が多いということは分かるが、居宅療養管理指導が上がっているということが実態としてどういうことか理解できない。</p>

事務局	<p>数字としては示せないが、予防の居宅管理が増えているのは薬局の薬剤師による訪問指導で、薬の飲み忘れや物忘れが増えてきているが体は元気なので要介護認定でいうと要支援の方が薬の飲み忘れが多いので、今積極的に薬局が地域に出てそういう方を支援するようになったことが原因の一つではないかと考える。</p>
長戸委員	<p>わかりました。</p>
小山委員	<p>基本的なことであるが、データの説明をいただいて資料が何を意味し、委員の役割としては何を決めていけばよいか。</p>
事務局	<p>次期計画に繋がる現行計画の策定時からコロナ禍などにより状況がいろいろと変化していく中次回計画に反映すべく、この資料では現状を委員の皆様にもまず理解いただきたいということで今の項目であります。</p> <p>次の項目以降では次期計画の内容に入る。</p> <p>今回は素案を示してまいりたい。</p> <p>エ 各種調査結果の報告について 【資料4】</p> <p>オ 高齢者を取り巻く現状と将来の見通しについて 【資料5】</p> <p>資料に基づき、事務局より説明</p>
山岸会長	<p>ただ今の事務局の説明について、委員より質問・意見はあるか。とくに「オ 高齢者を取り巻く現状と将来の見通しについて」は今日のとりまとめのような内容であったと思うがいかがか</p>
風間委員	<p>13 ページの「低栄養リスクの状況」の3行目辺りには、BMI 18.5 未満の人やアルブミン値の低い人が非常に多く、心配される場所であるという説明があったが、22 ページに各リスクの該当者の割合が載っている。そこには、栄養リスクが非常に低い割合で載っているが、21 ページの設問に「あなたの身長と体重を記入して下さい」、「6 か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか」とある。この設問により栄養リスクの有無の判断をしているようであるが、この設問でリスクを図ることとした理由を聞きたい。</p>
事務局	<p>この調査は、「元気高齢者等実態調査」という県で作成した全県統一で同じ調査を実施している。県に確認しないとわからないためこちらで預からせていただきたい。</p>
山岸会長	<p>県でまとめているようであるが、風間委員は「このデータのみで栄養リスクを図り、低いと決めるのは一概には言えないのではないかと」言いたいのであろう。その辺り、最終的なまとめでは踏み込んでいくところも検討いただきたい。</p>

<p>布目委員</p>	<p>今まで各指標の達成状況や高齢者福祉や介護保険事業をめぐる現状について共有化するため説明いただいた、それはしっかり受け止めながら最後に「第9 高齢者施策推進における課題の整理」で次期計画に盛り込む問題意識の提起があった。このこと自体に大きな異論はないが、原状の推移の説明について総論的に聞きたい。丸3年の新型コロナウイルス感染症下において、高齢者の健康度が悪化、あるいは、大きくは変動していないなど評価があると思う。例えば施設に入所又は入院などで面会がなく認知症の進行が一挙に深刻化するケースなど様々な相談をいただいている。では、コロナ禍によって悪化している現状からどのように復帰していくのか。自分も判断がつかないが、相対的に見てコロナ禍の3年間で市民の健康度は決して良くなっておらず、体感としてほぼ横ばいというよりも悪くなっているという認識がある。統計上そこまでは評価付けできないというのであれば、そう説明をいただきたい。今後5類となり with コロナの時代を生きていくことになると、コロナ禍との関係性は避けて通れない。その中で高齢者福祉は、さらに介護保険事業をどのように位置づけていくのか、次期計画策定の一つの視点として必要ではないか、という思いがある。総論的であるが、そういう点の原案を作っていくうえで行政側の問題意識や視点というのとはどのようなものか</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどの統計的な話からも、活動自粛していたものは再開されることで数字は伸びていくが、健康の部分においては、だれもが初めての経験の中で過ごすためなかなか難しい。次回分科会では、現行計画の第3章に当たる基本理念や重点項目・指標などを見直し、示していく。その中でも本日のご意見について考慮すべきところがあれば政策的な目標や事業につなげていくことがどのくらい計画に取り込めるかということも検討しておきたい。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
<p>山岸会長</p>	<p>この新規計画の中にはコロナ禍からの脱却ということを入れ、現状に戻し、さらに良くしていく。次の令和9年度以降の計画に繋げていくということもあるのではないかと。事務局からも「次回に」とあった。布目委員からは今回の計画の一つの目玉ではないが、あるべき姿であるとの指摘であると思うので難しいとは思いますが是非検討をいただけたらと考える。</p> <p>サービスや需要が落ち込んでいるところを持ち上げるのが重要なところである。</p>
<p>山内委員</p>	<p>資料5 37 ページ (1) サービスの利用についての「施設を利用している理由」についてだが、「介護する家族がないから」とあるが、これは介護している家族がない独居老人だから利用している。という理解でよいか。</p>

事務局	<p>「介護する家族がない」にはいろいろなパターンがあると思うが、遠方に住み、看ることができない夫婦のみの世帯であったりというような状況の人がアンケートに○をしている。また、聞いている相手のご家族であるということも影響しているかもしれない。対象者が「入所している理由」が「介護する家族がないから」ということである。</p>
山内委員 事務局	<p>そうするとネグレクトを受けているからというわけではないのか そういうことではない。調査の表現に誤りがあるように感じられるが、実は前回までは直接入所している施設に伺い利用者に聞き回答にしていたが、今回の調査に当たっては、コロナ禍でありご家族に調査票を送り、利用者に質問していただき回答を家族に書いてもらっている。</p>
山内委員 山岸会長	<p>それで前回と違うのであればわかりました では、単純に比較ができないわけなので、注釈を入れたほうがいいですね。</p>
中村委員	<p>中核市の高齢化率のデータでは上から 15 番目と高いが、比較して介護認定率は低い。先ほどの見解では、コロナの影響で申請控えがあったのではないかという話もあった。介護認定率が低いことに関しては良いことであると思うが、何か市としてはその理由についての見解はあるか。</p>
事務局	<p>介護保険制度には、要支援、要介護の認定があり、それに当てはまらない人が介護を必要としない高齢者となり、認定されない人が多いと言える。「元気な高齢者が長く元気でいられる」という方が多い傾向が言える。元気な高齢者が長く元気でいられるようにという施策も先ほどの説明の中に盛り込まれている。介護保険計画とともに高齢者福祉計画も兼ねているので、そちらについても認定率の低い長野ということが良い形でアピールできるようなものが新たに考えられる。</p>
中村委員 事務局	<p>それではこれは一つの良い特徴と捉えてよいのですね。 はい。</p>
宮本委員	<p>資料「高齢者を取り巻く現状と見通し」中の項目に高齢者の良い面を増やした方が、市民が自信をもって行動でき、様々な面で役に立つと考える。私から項目を2つ増やしてはいかがかという提言であるが、一つは健康寿命について、長野県は男女ともにNo.1である。日常生活動作が自立している期間で要介護2以上が該当である。県は全国トップなので項目に入れることでお互いに自信をもって行動すると考える。それが、「保険料が下がる」ということにつながっている。「健康寿命」の指数について創意工夫をして掲載してほしい。</p> <p>2点目は、長野県は高齢者の有業率がトップである。この2点は県の高齢者が大いに自助努力をし、健康につながっている部分であると考えます。</p>

事務局	<p>良い面をPRすることも大事であると思う。以前、新聞に全国で男女のトップの市区町村は、神奈川県麻生区であると掲載されていた。トップの理由は、麻生区は都心から小高い場所に位置しており、病院も完備されているため、小高いところに車を使わず歩いてくる。公共交通機関が発達しており、電車に乗れば立っている人が多く知らぬ間に足腰が鍛えられる環境である。長野県は、公共交通機関があまり発達していないので車に乗ってしまう。「高齢者は、大いに歩きましょう。」と訴えてみてはいかがか</p> <p>ありがとうございました。非常に貴重な意見を頂戴した。本市に、大きな計画の一つに市の健康増進に係る計画もあり、そちらにも含まれているとは思うが、このあいプランの中で長野市が特に優れているところをアピールしていきたい。</p>
戸谷委員	<p>説明が省かれた事前資料の中で、介護事業者のアンケートをみたが、その中に「人材が不足している」ということがかなりあった。現計画の中で「持続可能な基盤整備」とあるが、現在長野市としてどのような努力をしてきたのか、今後何年後かにはすぐにどんどん人材が不足していくことが考えられる。それを踏まえ、早急に対応していかなくてはならない問題だと思う。次回の計画の中に盛り込むということなので、現場の方々が困らないように策定していきたいので知りたい。</p>
事務局	<p>全国的に介護人材が不足している。事業者からも不足感を感じているという話は聞いており、課題であると考えている。これまでの事業所への支援としては、事業所に勤める介護職員が働きやすい職場環境で勤めていただき、事業所が確保した人材を手放さないで、人材が定着することを目的として、事業者向けの研修を定期的開催し支援してきた。ほかにも県の支援として、ICTを導入できるところは、ICT化していただき、人に対しては人が支援するところの支援をしてきた。</p> <p>次期計画に向けては、国が県に支援基金を活用し支援するよう方向性が示されている。</p> <p>そのあたりの動向を確認しながらまた次期策定について研究していきたい。</p>
黒岩委員	<p>地域福祉を担当してきた。宮本委員の言う通り良いところのPRをし、たくさん載せて行ってほしい。中条では、高齢者率が長野市の中でも高い。そのような中でも地域のボランティアの発案で「長寿を喜び合う集い」を合併前から実施している。コロナ禍で今は辞めてはいるが、住民が元気であることを喜び合えるということが、住民の中から出るというような、住民が元気になれるような計画づくりができていくと良いと考えた。</p> <p>また、地域住民だけでも、施設の方だけでもない、ともに地域を支える</p>

<p>事務局 山岸会長</p>	<p>ということが、連携してネットワークを持ちながら地域を支えていくということになると良い。また、膨大で大変だったと思うが、中条地区の中の現状をもとに作っていったら良いと感じた。</p> <p>次期計画についてもご意見を踏まえながら策定していきたい。</p> <p>ご意見ありがとうございます。大きな修正や反対はなく、提案のようなものが多かった気がする。本日の委員の意見を踏まえ次回計画の検討に生かしてもらえればと考える。よろしく願います。</p>
<p>山岸会長</p>	<p>カ 国が示す基本指針の構成について【資料6】 資料に基づき、事務局より説明</p>
<p>山岸会長</p>	<p>委員からの質問はあるか、無ければ以上とする</p> <p>委員の皆様には、資料を読み返し何かご意見・ご質問等ありましたら9月8日（金）までに事務局に報告ください。</p>
<p>山岸会長</p>	<p>(2)老人憩の家の利用者負担の見直しについて【資料7】 資料に基づき、事務局より説明</p>
<p>山内委員</p>	<p>事務局の方からの説明と最後に18ページの案1から案5について示された。これに対して委員の皆様ご意見ご質問等がありますか。考え方について案1から案5のほかにはべつの考え方があるのではというものがもしあれば、そういうものも願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>これまで利用料金について何度か値上げをしてきたが、障害者介護者について値上げをしてこなかった理由を教えてください。</p>
<p>小山委員</p>	<p>これまで審議会、分科会の中で審議いただいているが、有料化すべきという意見もあれば、障害者の方は経済的弱者ということもあり有料にすべきではないという意見もあり、3年前の審議会の中では、今回はそのまま無料として、3年後に再度検討するという付帯意見とともに答申がなされた。その前の審議会でも障害者の方の利用料金について意見があったが、長野市の公共施設の例では無料とするのが一般的でもあり、有料化に踏み出すためには、改めて再度検討が必要であるということで、無料のままとなってきた。</p> <p>この議論については何回か参加してきた経緯がある。今回はしっかりと比較検討されて、きちんとした資料出していただいた。この施設を利用している方たちは全体的にここがなくなったら困ると言うことがまずある。その中で、今本当に様々なものが値上げをしていて、また憩の家でも値上</p>

	<p>げになるのがつらいのは分かる。けれども、この試算をした時は今ほど色々な物が高騰する前の段階で計算しているのだと思うが、そうなると、現状を維持することはこれでも厳しいのではないか。アンケートの中で利用者がどれだけ負担するのがいいかと思っているのかというものの、100円という額を考えた時、利用者が週に何回使用しているのかを見ると、一番多いのが1回です。そうすると月に4回として400円の負担増というふうになります。ペットボトル2本分くらいです。それで、この維持を応援する、自分も使うので、使った人がそれなりの負担をしていく、という考え方にのっとれば、私はこの中で案の2が良いと思う。</p>
戸谷委員	<p>施設を利用しているのは近隣の方がほとんどというデータが出てきている。税金が投入される限りは、公平性というものが必要になってくると思うが、この施設がない地域も当然ある、この施設の恩恵を受けているのが、施設の近隣の高齢者、障害者だけという形になってしまうと、施設の無い地域の方にとっては不公平感が出てくるのではないか。やはり利用料金は他の入浴施設と比べてもだいぶ安い。物価もかなり上がっており、私の意見としては案1でいいのではないのかと思う。</p>
山岸会長 布目委員	<p>値上げの賛成意見がでておりますけれども他のご意見はありませんか この利用者アンケートはいつのものか。今の物価高騰になる以前の利用者アンケートだったと記憶している。現在の物価高騰、利用者から見た場合は物価高騰で負担が大きくなるということが影響としては大きいことは共通認識だろうと思う。一方で、物価高騰で原材料も上がっているので運営コストも上がっている。令和4年度決算ベースでの数字は出ているが、最近の重油等、原材料の値上げ等によるもの、利用者数の推移もあるかと思うが、かなりコスト増になっていることが推測はできる。どのくらいなのか試算出来ているのか。</p>
事務局	<p>試算については、データがなくお答えできません。アンケートは昨年です。物価高騰になってきているのかなと思っている。コスト計算はあくまで令和4年度の決算ベースで算出した。665円であるが、委員がおっしゃるとおりコロナの影響で利用者数が非常に落ち込んでいるという状況の中でのコスト額になる。これが他の年ときちんと比較できるかということになるかと思う。そのため、試算として、平成30年度の利用者の人数と、令和4年度の開館した日数でコストを出したところ359円となった。一般的な話になってしまうが、ガス代、電気代、灯油代など上がってきており経費が上がっている状況と、またお客様が来なくてもかかる費用というものもあるなかで、ランニングコストが上がってきているという状況はあるものと考えている。</p>

布目議員	<p>物価高騰については、たとえば観光施設や温泉施設などの指定管理者に対して必要な経費増分を市が公費で補填をする支援と言うのが行われている。老人憩の家の関しても税負担で物価高騰分の原材料費分は市が補填をしながら運営をしていくというのを基本に考えると、利用者の4割の方が値上げを容認していて、限度としては300円くらいならば今まで通り利用できるのではないかと考えている。また利用者の皆さん、当然高齢者の方が多いわけだが、交流の機会となり、そして入浴をすることによって健康増進の一助にもなっていくという効果をどれだけ評価していくのかというのが料金負担を考えていく上での大きな分かれ道になる。今日のこの審議会の中で一定の方向性を集約していくのか。</p>
事務局	<p>本日一定の方向性出していただければありがたいと思うが、今日に限るというわけではない。</p>
布目委員	<p>今日の審議会の一定の方向性ということであれば意見として申し上げておく。気持ちの上では、利用者負担の引き上げと言うのは気持ちが重いところがあり、継続審査と言う思いもある。ただ実際に運営コストの問題や、現在利用されている皆さんの気持ち、その利用効果を考えると、一定の利用者負担の引き上げはやむを得ないのかなというふうに考えている。1案から5案まで出されているが、利用者アンケートあるいは利用者の声を尊重していくという観点から、50円値上げで300円にとどめながら、障害者、介護者の皆さんについては、私は引き続き無料で提供していくという意見で述べておきたいと思う。4案になる。</p>
山岸会長	<p>1案、2案、4案というようなご意見いただいてきておりますけども、他の委員の先生方、ご意見はございますか</p>
中村委員	<p>伺いたいが、運営経費がどんどんあがってきて、利用者ご本人たちの値上げをしないでいくと、運営経費どんどんふくらんでいく、そういったときに、実際にこの憩の家をずっと経営していくことが可能なかどうか。ここのお風呂がなくなってしまっは困る人たちがいて、逆に運営経費がどんどん膨らむことによって、その施設自体が廃止になってしまうということはないのか。</p>
事務局	<p>資料11ページの下段に運営費があるが、平成30年は10施設で1億2589万7千円かかっている、令和3年に1施設廃止になり9施設になった。令和4年の運営費は1億3,944万8千円と、平成30年に比べると施設が一つ減っているにも関わらず増えている。運営経費が上がると当然コストはかかってくる。公共施設の考え方として、利用者は少ない、コストはかかってくる、ということになりますと、廃止と言ったものについても考えていかなければならないということになるかと思う。</p>

中村委員	<p>今回は値上げをすることによって老人憩の家を何とか存続させていくという方向だが、コストがどんどん上がっていってしまうと。いずれ廃止を検討していかなければいけない時がくる、ということか、</p>
事務局	<p>必ずしも利用料を上げたら廃止はしないというわけではない。ただし、憩の家の廃止をする、しないについてはまだ決定しているものではない。ただ施設も非常に古い施設で利用者も減ってきている、コストもかかっているという中で、今後どうするのかという検討は必ず必要になってくると思われる。</p> <p>このたびは、今現在利用している方にかかるコストに対し、負担割合が非常に低いという部分は見直しをした方がいいという意見をいただく中で、3年に一度の見直しに関してご意見をいただきたいというところである。</p>
布目委員	<p>憩の家の存続などに関しては、利用者負担や運営経費の話だけでなく、建物の老朽化も含めて違う委員会か何かで俎上に乗るのであったか。</p>
事務局	<p>長野市は公共施設が非常に多くあり、平成の大合併のときにも多くの施設が増えている中で、公共施設の方向性とかそういったところを別で検討しております。</p>
山岸会長	<p>本件については事務局から5案示され、今回、委員の先生方からは1、2、4案の賛成意見があった。情報収集含めていったん先生方の方で検討していただき、新しい案は出てきていないので、この5案をベースに検討を進めていくということによろしいか。では、次回審議をさせていただきます。</p> <p>(3) 友愛活動事業の見直しについて 【資料8】</p> <p>資料に基づき、事務局より説明</p>
山岸会長	<p>これまでの分科会の意見を踏まえ提案いただいた。ただいまの説明に質問・意見があれば委員からあるか。青木委員はいかがか。</p>
青木委員	<p>3月まで実際に役員として事業を行っていた。今までの会の中で、たくさんの意見を聞き今回の資料を見せていただいた。ずいぶん検討していただき我々の意見を取り入れた内容に変更になっている。「ふれあい会食」事業も会食をしないと補助金が支給されなかったが、コロナ禍で開催できずに何カ月もみんなと会うこともできない一人暮らしの方が、大変寂しい思いをしている。という意見もたくさん聞いてきた中で、今度からは会食以外のことにもお金を使ってもらえるということが分かった。補助金内容も随分緩和されるようになったと思う。2人暮らしの高齢者世帯が対象になったことも大変良かったと思う。</p>

小山委員	今まで実施してきた自宅訪問についても、今後は実際家に伺っても、電話でも良い様変更していただき、一人暮らしの方や高齢者のみ二人暮らしの方、随分地区の民生委員やボランティアの方と近い位置になってくれたと思い、良かった。
山内委員	会を開くと1回500円ということであるが、経済的に貧困であれば費用を出すのは判るが、貧困ということを区別しないで、70歳以上の対象者にはどんな経済状況でもこの額をサポートしてあげるという理解でよいか。
事務局	これはあくまでもこの活動を行っていただくボランティア団体への補助となるため、基本的にそこまでの確認をいただくことは実際に困難であり、まずは孤立や孤独感の解消というところで、貧困かは確認せず行っている。
山内委員	それであれば、実際ボランティア活動の中で、補助額とは別に参加費を徴収することはあって構わないのか。
事務局	資料8-3に他市の状況がわかる範囲で掲載されている。 60の中核市のうち会食事業を行う市の状況では、本人負担を取っている市もあるので、そういうことはできると示していきたい。
山内委員	2枚目資料にある「子ども食堂等の他の世代の事業や、市全体の財政・政策的バランスも考えるべき」は、どのような内容であるか
事務局	前回、小野委員からいただいた意見であるが、今回はそこまで到達はできなかったが、30年間見直してこなかった部分を今回しっかり見直し、今後の課題として検討していきたい。
小山委員	先ほどの資料5の「高齢者を取り巻く現状と将来の見通し」にも掲載されており、課題の整理の中にも「外出の機会の喪失と孤立・孤独の防止」という欄があった。本当に孤立・孤独がいかに人間にとって非常にむしばまれていく大変危険なものであるかということが判るので、是非今までの友愛活動をさらに進化させ、より使いやすくしてほしい。参加者も「食事のために来てよ」と声がけすることがあったと聞くが、その方たちが興味を持つもの、例えば「おいしいコーヒーの淹れ方」とか男性が「ちょっと行ってみようかな」と感じるような工夫をしていくなど、形を変えていくことで友愛活動が進化していくと考える。もしかしたら、そこに子供も連れてきて一緒に参加できるというような形をとったらどうか。という意見もある。先日テレビで不登校の子たちが、囲碁の教室で高齢者と交わることにより、不登校の子たちも自信をもって人と関われるようになり、またお年寄りはお年寄りで「自分が役に立つんだ」ということでそれぞれがwin-winの形で進んでいくという事例をやっていた。広い視点でいろいろなところでやっている良い事例を参考に進んでいって欲しい。

山岸会長	<p>い。</p> <p>ほかにご意見はよろしいか、それでは提案に対しよろしければ挙手をお願いします。</p> <p>全員挙手がありましたので妥当であると考え、今回出された意見を参考に事務局は進めていただきたい。</p> <p>次回以降も忌憚のない意見をお願いしたい。</p>
事務局	<p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> 第3回分科会 令和5年10月20日(金)午後 第4回分科会 令和5年11月6日(月) <p>の開催を予定している。</p> <p>7 閉 会</p>